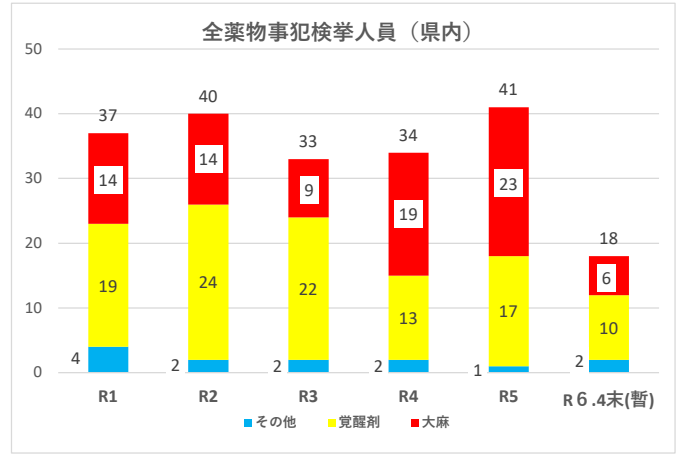
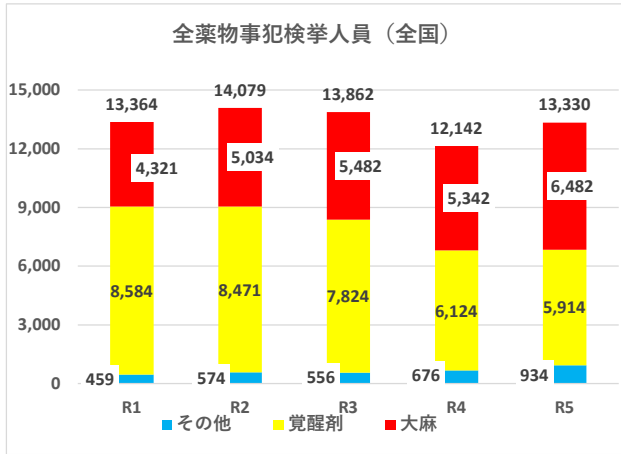
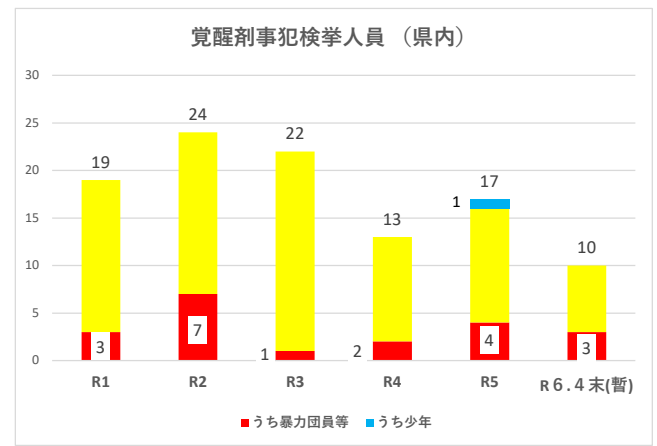
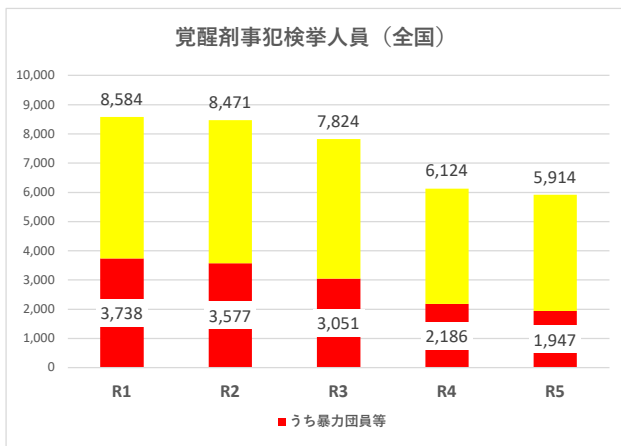


定例記者会見 資料	薬物乱用防止対策の推進について	令和6年6月12日 刑事部
<p>1 令和5年中における全国の薬物事犯検挙状況</p> <p>(1) 全薬物事犯検挙人員 13,330人 (前年比+1,188人)</p> <p>(2) 覚醒剤事犯検挙人員 5,914人 (前年比-210人)</p> <p>(3) 覚醒剤押収量 1,342.9kg (前年比+1,053.9kg)</p> <p>(4) 大麻事犯検挙人員 6,482人 (前年比+1,140人)</p> <p>(5) 大麻押収量(乾燥大麻) 784.5kg (前年比+494.9kg)</p> <p>(6) その他薬物事犯検挙人員 934人 (前年比+258人)</p> <p>2 令和5年中における岩手県の薬物事犯検挙状況</p> <p>(1) 全薬物事犯検挙人員 41人 (前年比+7人)</p> <p>(2) 覚醒剤事犯検挙人員 17人 (前年比+4人)</p> <p>(3) 覚醒剤押収量 9,387.844g (前年比+9,386.730g)</p> <p>(4) 大麻事犯検挙人員 23人 (前年比+4人)</p> <p>(5) 大麻押収量(乾燥大麻) 607.600g (前年比+373.450g)</p> <p>(6) その他薬物事犯検挙人員 1人 (前年比-1人)</p> <p>3 薬物事犯根絶のための県警察の取組</p> <p>(1) 覚醒剤・大麻事犯等、薬物事犯の徹底検挙 取締りによる末端乱用者の徹底検挙、さらに密売ルート of 解明・摘発による密売組織への打撃、供給源の遮断を図っている。</p> <p>(2) 密輸入事犯防止対策 岩手県警察と取締りに関係する各機関で組織する「岩手県銃器・薬物取締り連絡協議会」を設置し、取締りに必要な情報の共有体制を構築している。 海外から輸入された違法薬物は、税関からの通報に基づいて、密輸事件として連携して捜査に当たっているほか、今後地方に波及することが想定される薬物密輸事件に対応すべく、即応体制の構築や捜査手法の習得に努めている。</p> <p>(3) 広報・啓発活動の推進 国及び県の関係機関・団体で組織する「岩手県薬物乱用対策推進本部」を核として、違法薬物の有害性を訴えるポスターを掲示するなど、薬物乱用を拒絶する県民意識の向上を図っている。 また、本年6月及び7月を「薬物乱用防止広報強化期間」として、各種機会を利用して広く県民に対し薬物犯罪に関する広報啓発活動を行っているほか、年間を通じて、県内の中学・高校生に対する薬物乱用防止教室、薬物乱用防止活動に意欲的な団体の講習会における広報活動を行っている。 特に、若年層において蔓延がみられる大麻事犯や、交流サイト(SNS)上にある違法薬物の密輸入や密売などの犯罪実行者募集、いわゆる「闇バイト」に対する注意喚起を重点的に行うこととしている。</p> <p>(4) サイバー空間を利用する違法薬物密売事犯への対処 県警察サイバー犯罪対策課によるサイバーパトロールのほか、警察庁が運用する「インターネット・ホットラインセンター」からの情報提供により、インターネットを利用した有害情報の発見・削除に努めている。</p> <p>(5) 再犯防止対策の推進 薬物事犯で検挙された者やその家族等に対して、薬物の恐ろしさや薬物依存からの離脱に向けた意識付けを行い、再犯防止に努めている。</p>		

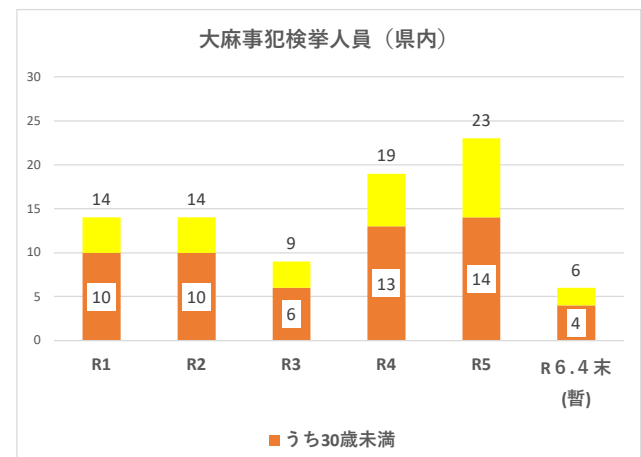
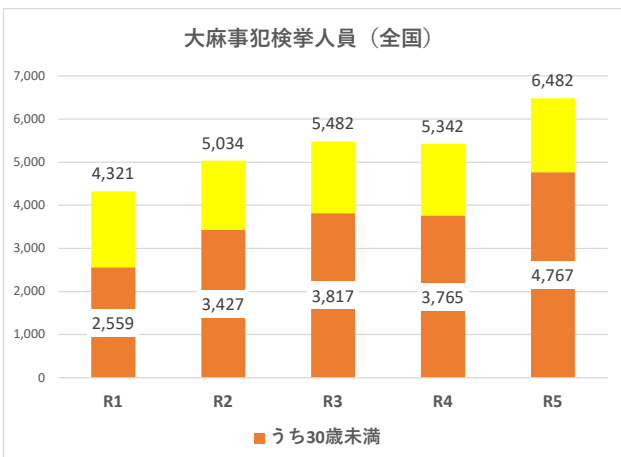
1 薬物事犯検挙人員



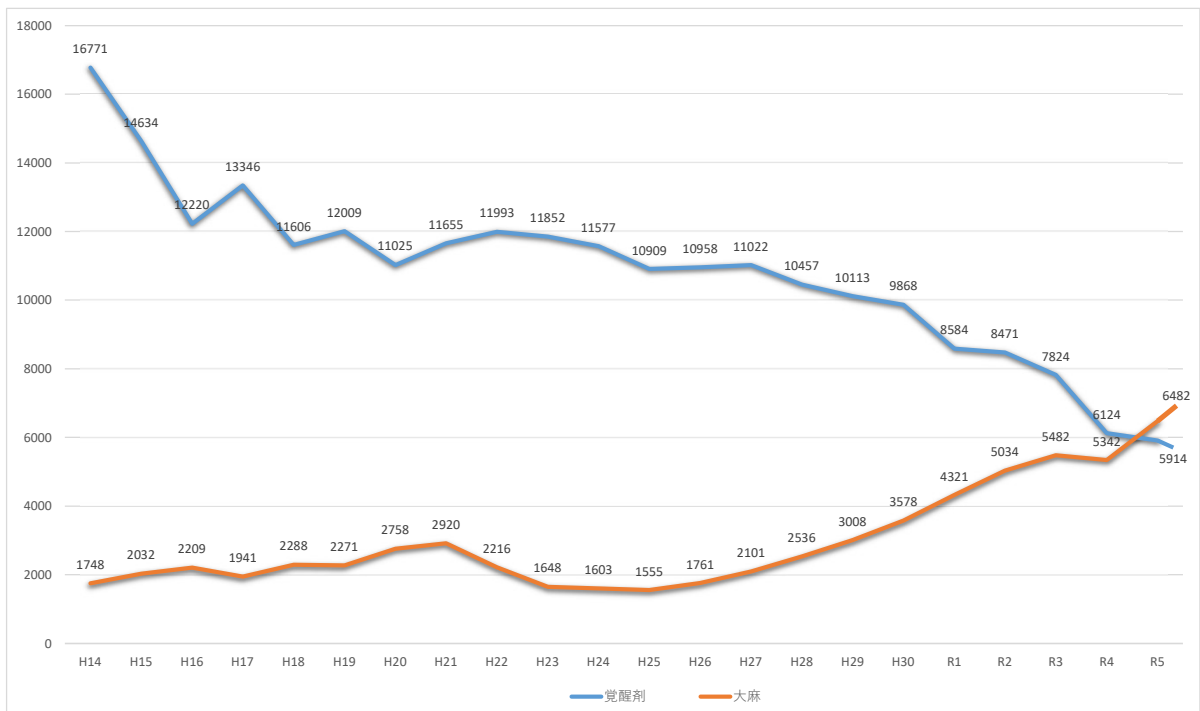
2 覚醒剤事犯検挙人員



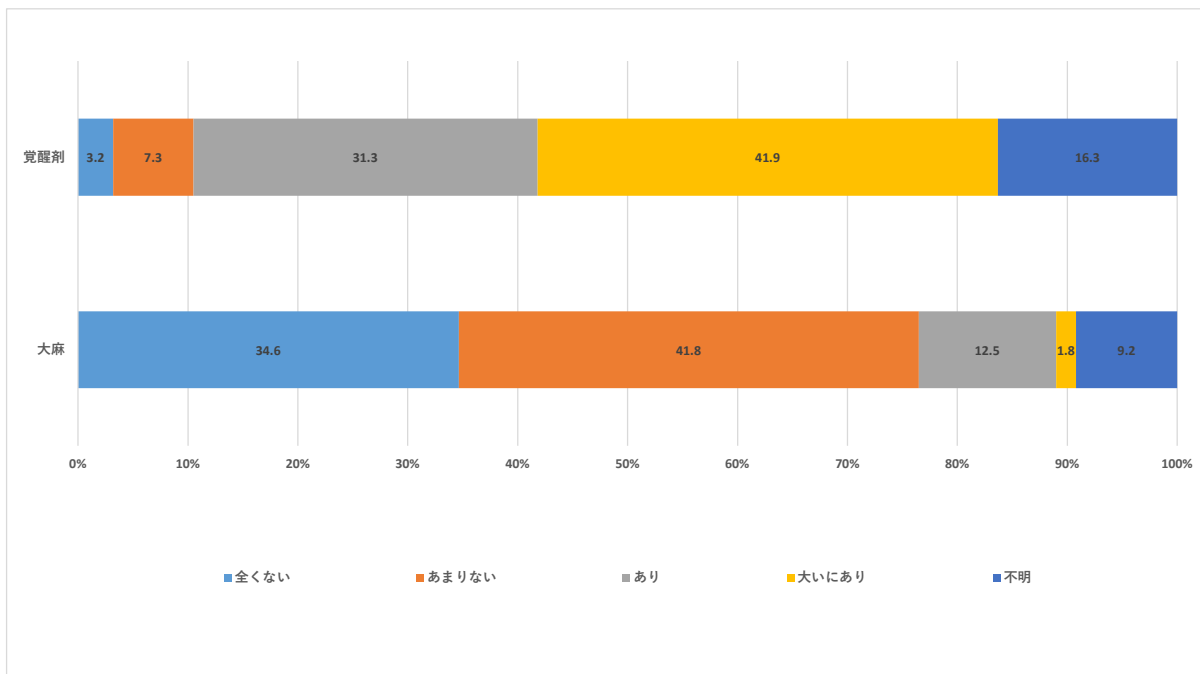
3 大麻事犯検挙人員



4 全国の覚醒剤及び大麻事犯検挙人員の推移



5 全国の覚醒剤及び大麻の危険（有害）性の認識



※警察庁発行「令和5年における組織犯罪の情勢」から抜粋